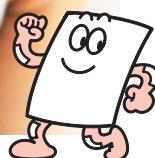


痛み止める外用薬



皆さんには、つらい腰や関節痛、筋肉痛の経験はありませんか？

今回はそんな時に患部に直接使う、「痛み止めの外用薬」について紹介致します。

シップや塗り薬など「外用薬」に対しても、飲み薬は「内服薬」と呼ばれます。外用薬にはどのような長所と短所があるのでしょうか。

短所

- 内服薬より効きめが弱いことが多い。
- 皮膚が弱い方や、傷がある場合には使いにくい。

長所

- 飲み薬と違い、腎臓や肝臓、胃への副作用が少ない。
- 患者さんも、飲み合わせの問題が少ないので使いやすい。

種類	特徴	使い方
軟膏剤	貼付剤	
● スティック剤 ● スミルスチックなど	● クリーム剤 ● インテバンクリームなど	<p>● パップ剤 ● ゼボラス ● 口キソーニンパップ ● セルタッヂなど</p> <p>● 冷却効果があり、けがの直後などに有効。</p> <p>● 汗を吸うので蒸れにくい。</p> <p>● 伸縮性、粘着性があり、関節などにもすれいでピッタリ。</p> <p>● 汗をかいたり、皮ふが少し伸びしながら痛いところに貼ると、ピッタリ付きやすい。</p> <p>● 入浴の30分前にはがす。</p> <p>● 入浴後は1時間ほど経つてから貼る。</p>
● 塗つても自立にくい。	<p>● 塗つても自立にくい。</p> <p>● 塗るときにマッサージ効果がある。</p>	<p>● 1日1～2回</p> <p>● パップ剤、テープ剤を少し伸ばしながら貼ると、皮ふがぬれていたりする場合は、きれいにふき取つてから貼る。</p>
● 1日3～4回 ● 痛いところと、その周囲まで軽く塗る。 ● 2～3度重ね塗りする。	<p>● 1日3～4回</p> <p>● 痛いところを中心にマッサージするように軽く塗る。</p> <p>● 1回のクリームの量は3㎤くらい</p>	<p>● 1日1～2回</p> <p>● パップ剤、テープ剤を少し伸ばしながら貼ると、皮ふがぬれていたりする場合は、きれいにふき取つてから貼る。</p>

※当院で扱っているお薬を例に挙げています。使い方は一般的な目安です。使い方がよく分からない場合は、医師・薬剤師におたずね下さい。